

千葉県八千代市

# 堰場台遺跡a地点

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



平成25年度

株式会社グランドラインコーポレーション  
八千代市教育委員会

## 凡　例

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成25年度民間開発等埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の報告書である。この調査は宅地造成事業に伴うもので、事業者である株式会社グランドラインコーポレーションの委託を受けて実施した。
2. 調査を行なった遺跡は壇場台遺跡a地点（遺跡No.292）・壇場台古墳b地点（遺跡No.271）で、所在地は千葉県八千代市大和田字壇場台283番1、大和田字掘込250番9である。
3. 調査及び整理は、以下のとおり実施した。

確認調査 平成24年度市内遺跡調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した。

期間 平成24年12月26日～平成25年1月21日 面積729m<sup>2</sup>/7,806.27m<sup>2</sup>

本調査 期間 平成25年7月1日～7月31日 面積842.5m<sup>2</sup>

本整理 期間 平成26年1月7日～平成26年3月31日

4. 出土した遺物のほか、写真・図面等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。
5. 本書の図版作成は森直行、小弓場直子が行ない、遺物実測図および遺物観察表の作成、遺物写真の撮影の一部を南原史文化研究所に委託し、編集・執筆は森が担当した。
6. 遺構No.は数字と記号（アルファベット）の組合せで表記した。記号は以下のとおりである。

竪穴住居跡：D 古墳：K 陥穴・土坑：P その他の遺構：I



八千代市の位置



壇場台遺跡・壇場台古墳の位置

## 本文目次

凡例

目次

### 第1章 調査経過及び概要

第1節 調査に至る経緯と調査の概要.....	1
第2節 墳場台遺跡・塚場台古墳の概要.....	1

### 第2章 検出された遺構と出土した遺物

第1節 墳場台遺跡a地点 繩文時代.....	5
第2節 墳場台遺跡a地点 古墳時代.....	9
第3節 墳場台古墳b地点.....	19

### 第3章 まとめ

第1節 繩文時代.....	23
第2節 古墳時代.....	23
第3節 今後の課題.....	23

報告書抄録

## 挿図目次

第1図 墳場台遺跡周辺図	第11図 01D出土遺物（2）
第2図 墳場台遺跡周辺の地形	第12図 01D出土遺物（3）
第3図 遺構配置図	第13図 01D出土遺物（4）
第4図 01P～03P実測図	第14図 02D実測図と出土遺物
第5図 04P実測図	第15図 01I実測図と出土遺物
第6図 04P出土遺物	第16図 遺構外出土遺物
第7図 05P実測図	第17図 01K実測図（1）
第8図 01D実測図（1）	第18図 01K実測図（2）
第9図 01D実測図（2）	第19図 01K出土遺物
第10図 01D出土遺物（1）	第20図 八千代市内の石製模造品出土遺跡分布図

## 表 目 次

第1表 0 4 P 出土遺物観察表	第5表 遺構外出土遺物観察表
第2表 0 1 D 出土遺物観察表	第6表 0 1 K 出土遺物観察表
第3表 0 2 D 出土遺物観察表	第7表 八千代市内の石製模造品出土遺跡
第4表 0 1 I 出土遺物観察表	

## 写 真 図 版

- 図版1 作業風景（1）（2），0 1 P 完掘，0 2 P 完掘，0 3 P 完掘，0 4 P 遺物出土状況・完掘，  
0 5 P 完掘  
図版2 0 1 D 遺物出土状況・焼土検出状況・炉検出・完掘，0 2 D 遺物出土状況・炉検出・完掘，  
0 1 I 遺物出土状況  
図版3 0 1 I 完掘，0 1 K 遺物出土状況・完掘（1）（2），0 4 P 出土遺物，0 1 D 出土遺物  
図版4 0 1 D 出土遺物  
図版5 0 1 D 出土遺物  
図版6 0 1 D 出土遺物，0 2 D 出土遺物，0 1 I 出土遺物，0 1 K 出土遺物

## 第1章 調査経過及び概要

### 第1節 調査に至る経緯と調査の概要

平成24年10月、株式会社グランドラインコーポレーション代表取締役久保利栄氏（以下「事業者」という。）から、大和田字塙場台283番1・字塙込250番9の宅地造成事業のための確認依頼が八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。これに対して市教委は当該地に遺跡が所在する旨を回答し、取扱いの協議を行った。協議の段階では既存建物の他アスファルト・コンクリート舗装やテニスコートなどの施設が当該地に残っていて、充分な確認調査の実施は困難と判断されたため、事業者が建物以外の舗装等を撤去した後に確認調査を行なうこととした。平成24年10月に事業者から文化財保護法第93条第1項の規定による土木工事の発掘届が提出され、市教委は準備の整った12月26日に確認調査を開始した。

**確認調査** 確認調査は、平成24年度の市内遺跡調査事業として国庫及び県費の補助を受けて実施し、対象面積7,806.27m<sup>2</sup>のうち729m<sup>2</sup>を調査した。その結果、遺構としては縄文時代竪穴住居跡1軒・陥穴1基・土坑4基、古墳時代竪穴住居跡3軒、古墳周溝1条が確認され、遺物としては縄文土器、古墳時代土師器が確認された。

**保存協議** 確認調査の結果をもとに協議範囲を1,030m<sup>2</sup>とした。その上で市教委と事業者間で検討した結果、1,875m<sup>2</sup>が盛土保存範囲となり、残りの842.5m<sup>2</sup>は記録保存の措置をとることとなった。事業者は平成25年3月4日付けで保存協議書を提出し、市教委は3月5日付けでこれを了承した。市教委はこの保存協議書をもとに調査の見積もりを提示し、事業者は4月22日付けで調査依頼書を提出し、4月26日付けで市教委はこれを受託した。5月13日付けで市・市教委・事業者の三者間で保存措置に関する協定を締結し、同日に市と事業者間で本調査の委託契約を締結した。市教委は事業者による既存施設撤去工事の進捗と調整しつつ、準備が整った7月1日に本調査を開始した。

**調査の方法** 基準杭の設定は調査対象地内で任意に10m方眼のグリッドを設定した後に公共座標を加え、遺構の測量は光波測量機を使用した。表土剥ぎは重機で行なった。

**調査経過** 1日は機材搬入・杭設置、2～4日は表土剥ぎを行なった。5日に各調査区の遺構検出写真を撮影し、遺構の調査を開始した。各調査区の調査はA区が26日、B区が30日、C区が23日、DおよびE区が18日、F区が24日、G区が25日にそれぞれ終了し、31日にすべての調査を終えて撤収作業を行なった。

遺物の洗浄や注記といった基礎整理は8月1日～9日まで行なった。本整理では遺物の実測および遺物観察表、遺物写真撮影の一部を有原始文化研究所に委託し、図版作成や原稿執筆は平成26年1月7日～2月7日まで行なった。

### 第2節 塙場台遺跡・塙場台古墳の概要

**遺跡の立地** 塙場台遺跡・塙場台古墳は八千代市の南部に位置し、遺跡の南側には市の中央を流れる新川の支流である高津川が流れている。遺跡は高津川と高津川より伸びる小支谷によって開析された台地上に位置し、標高は24m前後である。

**これまでの調査** 昭和58年（1983年）5月～6月に水道管の埋設工事中に箱式石棺が発見されたため、調査を行なった（八千代市教育委員会編2002）。その結果、11体分の人骨と直刀5振、多数の鉄鏃、刀子、耳環、ガラス玉などが出土した。箱式石棺の規模は長さ約2.1m、幅約0.9m、高さ約1.2mで、蓋石は4枚、側壁は左右それぞれ4枚ずつ、小口壁は1枚ずつ、底石にも4枚の板石が使われ、合計18枚の板石から

なる組合せ式の箱式石棺であった。

一方、今回調査を行なった地点は平成22年4月に当時の土地所有者から確認依頼があり、当該地が堰場台古墳の隣接地であったため、同年5月17日と19日に試掘調査を実施した。その結果、堰場台古墳の周溝と弥生時代終末期～古墳時代前期と思われる竪穴住居跡1軒を検出し、当該地に新発見の堰場台遺跡が所在することが明らかとなり、市教委は同年7月13日付けで千葉県教育委員会に堰場台遺跡発見の報告を行なった。

**周辺の遺跡** 大和田地区は、江戸時代にさくら道（のちの成田道、現国道296号線）の宿場町として栄えたと伝えられ、その後も八千代町の中心地として市街化が早くから進んだ。また、京成本線・国道296号線が通る市域南部は大和田以外も開発が早くから進められ、遺跡の所在把握は充分ではなかった。このため、市域南部は全体的に遺跡希薄地帯となっている。しかし、堰場台遺跡・堰場台古墳の北東方向には、古墳時代中期～後期の集落跡及び中世を主体とする小板橋遺跡があり、西方には高津川を挟んで、古墳時代後期及び平安時代の集落跡である内込遺跡、さらにその西隣に旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の集落跡である高津新山遺跡がある。高津川の流域に位置するこれらの遺跡では比較的濃密な遺構・遺物の分布が確認されている。

#### 参考文献

財団法人千葉県文化財センター1997『千葉県埋蔵文化財分布地図(1) 一東葛飾・印旛地区（改訂版）』

助千葉県文化財センター

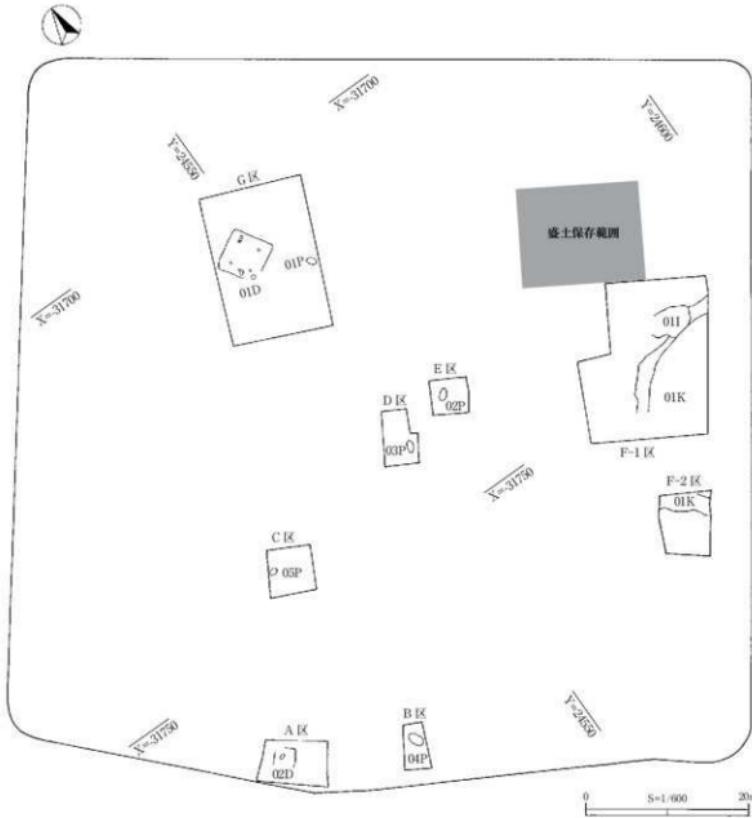
八千代市教育委員会編2002『千葉県八千代市市内出土人骨分析委託報告書』八千代市教育委員会



第1図 墳場台遺跡・塚場台古墳周辺図



第2図 墳場台遺跡・塚場台古墳周辺の地形



第3図 今回の調査で検出された遺構の位置

## 第2章 検出された遺構と出土した遺物

堰場台遺跡a地点では、陥穴1基を含む縄文時代の土坑5基、古墳時代の竪穴住居跡2軒と性格不明の竪穴状遺構1基、堰場台古墳b地点では古墳の周溝1条を検出した。出土した遺物の総点数は654点で、内訳は縄文時代遺物12点（土器11点、石器1点）、古墳時代遺物641点（土師器326点、土製品1点、石製模造品1点、石製模造品の未製品34点、原石2点、剥片・細片・礫・軽石277点）、中世遺物1点（瓦質土器1点）である。

### 第1節 堰場台遺跡a地点 縄文時代

遺構としては陥穴1基を含む土坑5基を検出した。

O 1 P 調査区：G区 時期：不明 検出面：ソフトローム層

遺構 平面形態：楕円形 規模：長軸1.22m×短軸0.73m×深さ0.27m

遺物 なし

O 2 P 調査区：E区 時期：不明 検出面：ソフトローム層

遺構 平面形態：楕円形 規模：長軸1.38m×短軸0.92m×深さ0.38m

遺物 なし

O 3 P 調査区：D区 時期：不明 検出面：ソフトローム層

遺構 平面形態：楕円形 規模：長軸1.60m×短軸(0.72)m×深さ0.28m

遺物 なし

O 4 P 調査区：B区 時期：不明 検出面：ソフトローム層

遺構 平面形態：楕円形 規模：長軸2.00m×短軸1.30m×深さ2.00m

東西の断面は台形状に近い。北壁と南壁の壁は上端よりも奥側に掘り込まれ、底面および壁面には掘削した際の凹凸が見られた。

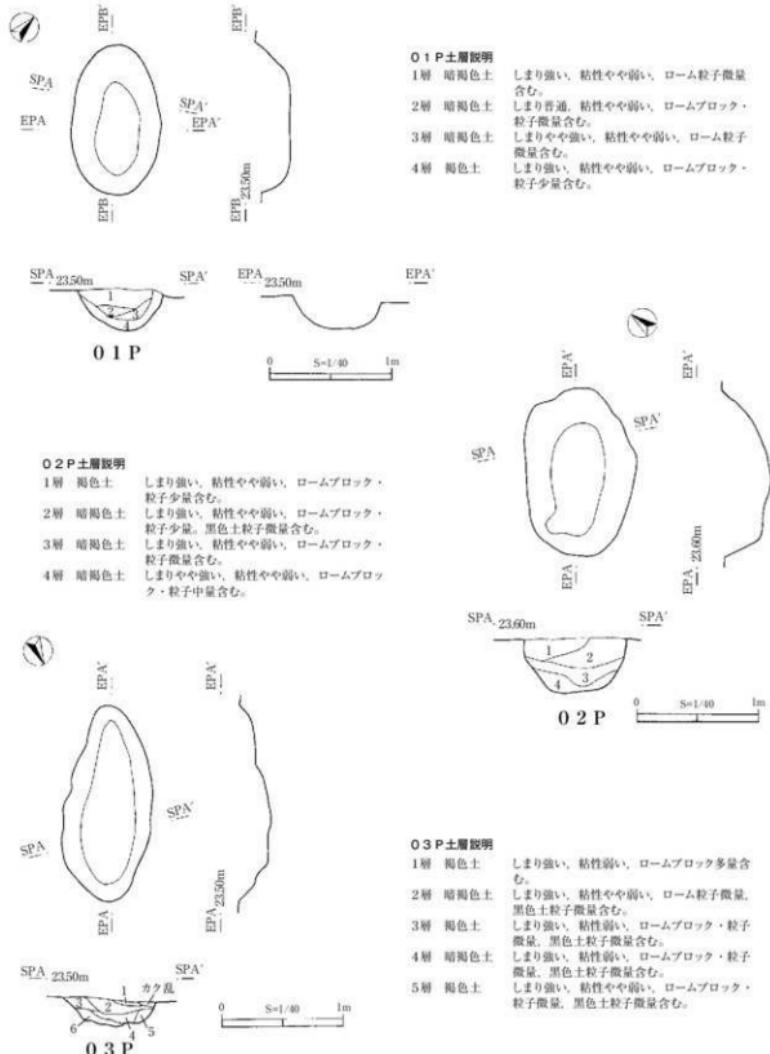
遺物 石鎌1点

完形品の石鎌が底面から出土した。

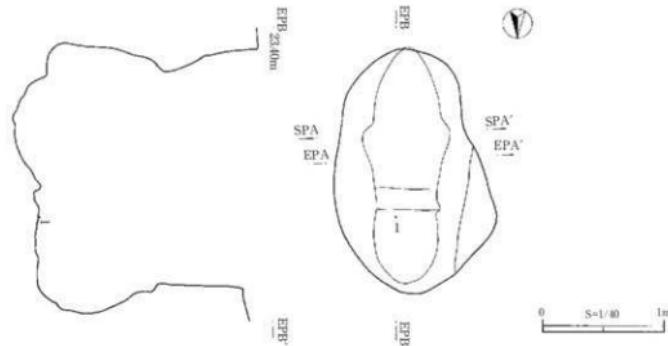
O 5 P 調査区：C区 時期：不明 検出面：ソフトローム層

遺構 平面形態：不整円形 規模：長軸1.00m×短軸0.82m×深さ0.18m

遺物 なし



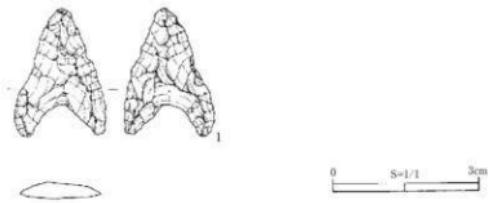
第4図 0 1 P～0 3 P 実測図



#### O4P 土層説明

- 1層 暗褐色土 しまり強い、粘性普通、ローム粒子・ブロック微量含む。
- 2層 暗褐色土 しまり強い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子少量含む。
- 3層 暗褐色土 しまり強い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子中量含む。
- 4層 暗褐色土 しまりやや強い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子少量、黒褐色土粒子微量含む。
- 5層 暗褐色土 しまり普通、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子中量、黒褐色土粒子微量含む。
- 6層 暗褐色土 しまり普通、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子少量含む。
- 7層 暗褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い、ロームブロック少量、ローム粒子微量含む。
- 8層 暗褐色土 しまり普通、粘性弱い、ロームブロック・粒子多量含む。
- 9層 暗褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子中量含む。
- 10層 暗褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ロームブロック・粒子少量含む。
- 11層 暗褐色土 しまり弱い、粘性弱い、ロームブロック・粒子多量含む。
- 12層 暗褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、ロームブロック・粒子少量、黒褐色土ブロック微量含む。
- 13層 暗褐色土 しまり弱い、粘性弱い、ロームブロック・粒子多量含む。
- 14層 暗褐色土 しまり弱い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子少量、黒褐色土ブロック・粒子少量含み、土はボソボソしている。
- 15層 暗褐色土 しまりとても弱い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子中量、黒褐色土ブロック・粒子少量含む。土は非常にボソボソである。

第5図 O4P 実測図



第6図 O 4 P出土遺物

第1表 O 4 P出土遺物観察表 (第6図)

No	器種	状態・部位	計測値 (mm)	○鉛土／石材 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	推定 ( ) 現存 < >	
						出土状況	
1	石器	完存	長26.0 幅18.0 厚3.0 重11g	○チャート			底面直上



第7図 O 5 P実測図

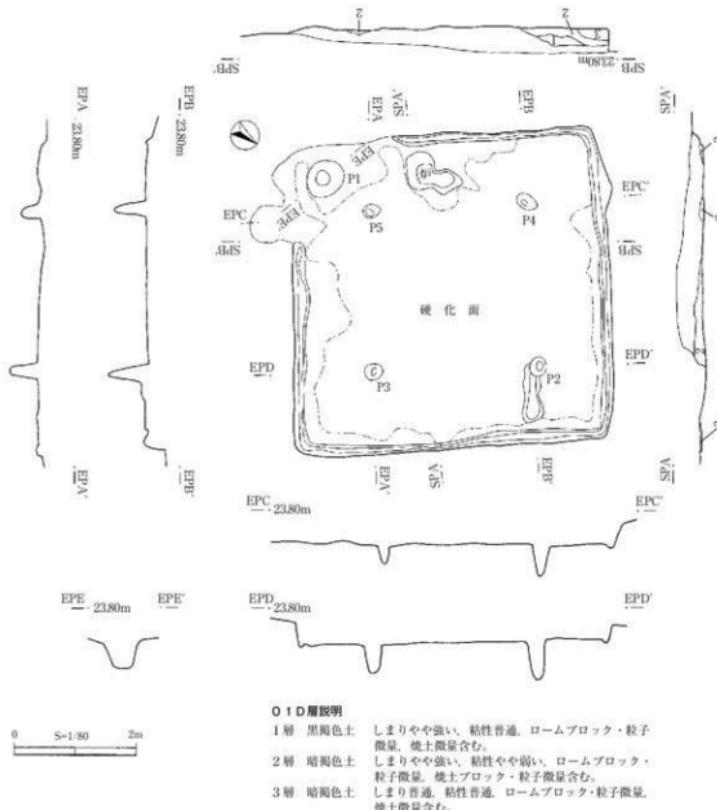
## 第2節 墳場台遺跡a地点 古墳時代

遺構としては中期の堅穴住居跡2軒と後期の堅穴状遺構1基を検出し、調査を行なった。

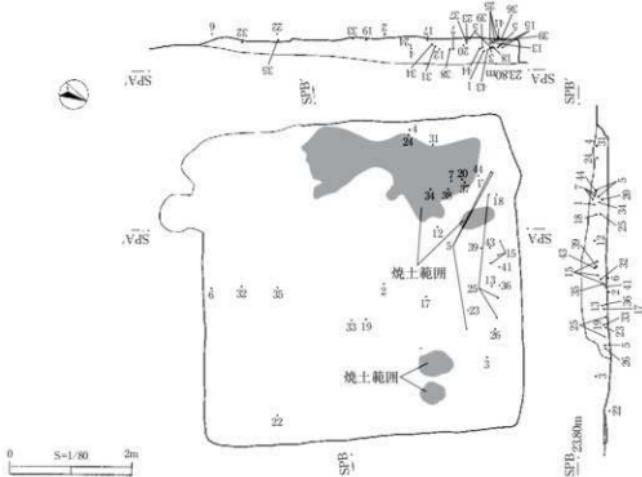
O 1 D 調査区：G区 時期：中期 検出面：ソフトローム層

遺構 平面形態：方形 規模：長軸5.20m×短軸5.16m×深さ0.4m

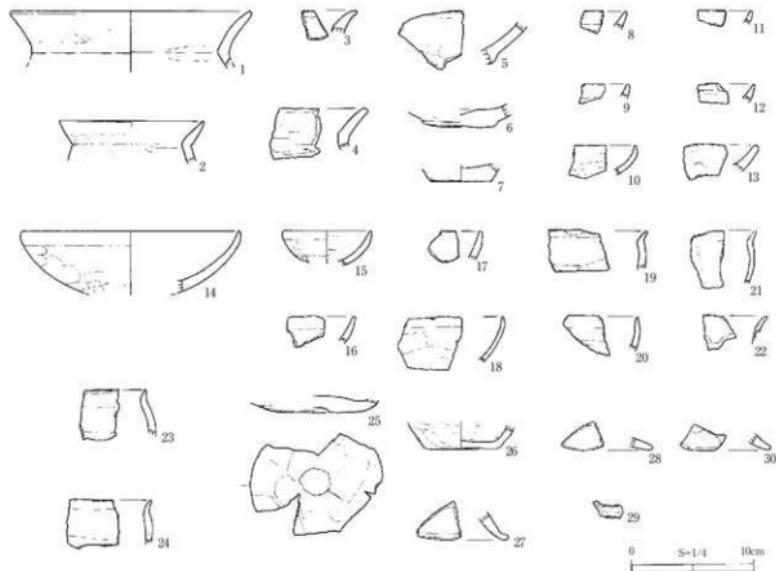
本住居跡からは柱穴と思われるピット4基、貯蔵穴と思われるピット1基、炉1基、P2に接した用途不明の浅い溝1条、壁溝が確認された。ソフトローム層の地山が床面となっており、床面の硬化の度合いは弱い。床面から覆土にかけて焼土が面的に認められたが、2層中で検出されたことから本住居跡廃絶後の覆土の堆積途上で形成されたものと考えられる。なお、本住居跡の南側は搅乱がひどく、搅乱によって床面や壁面、壁溝の一部が壊され、炉も大部分が搅乱によって破壊されていた。



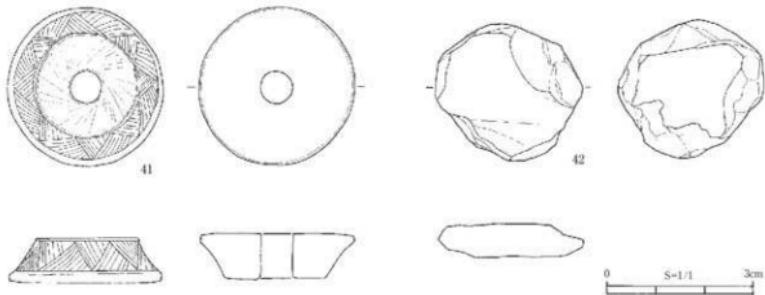
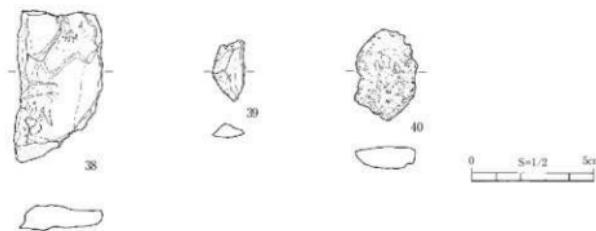
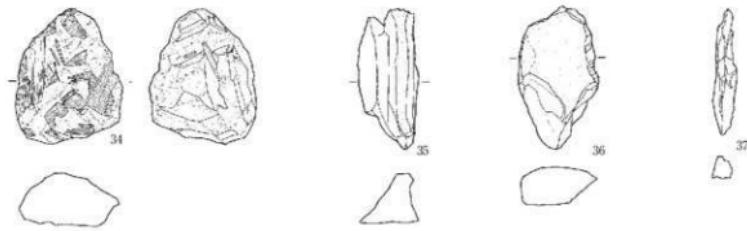
第8図 O 1 D実測図 (1)



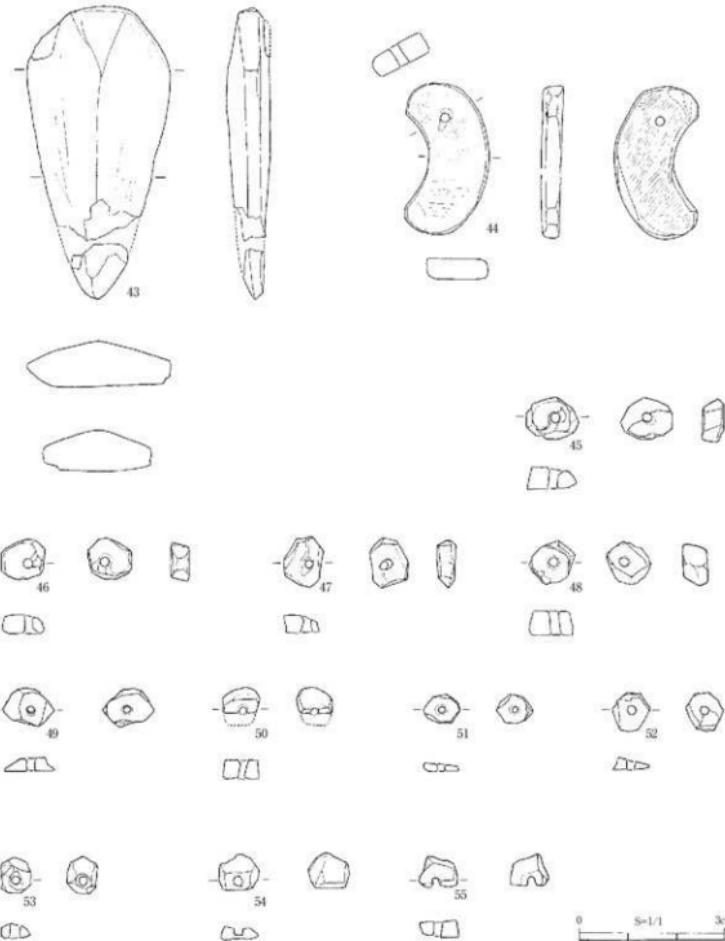
第9図 O 1 D実測図 (2)



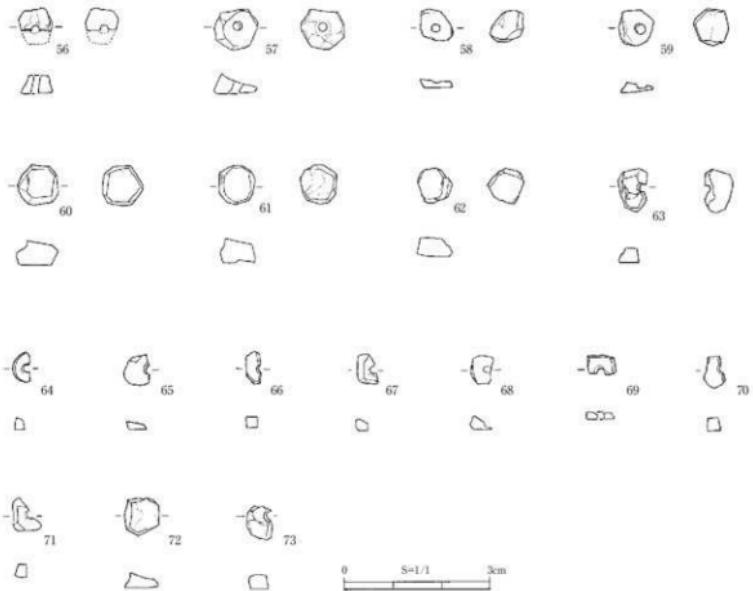
第10図 O 1 D出土遺物 (1)



第11図 01D出土遺物（2）



第12図 O1D出土遺物 (3)



第13図 O 1 D 出土遺物 (4)

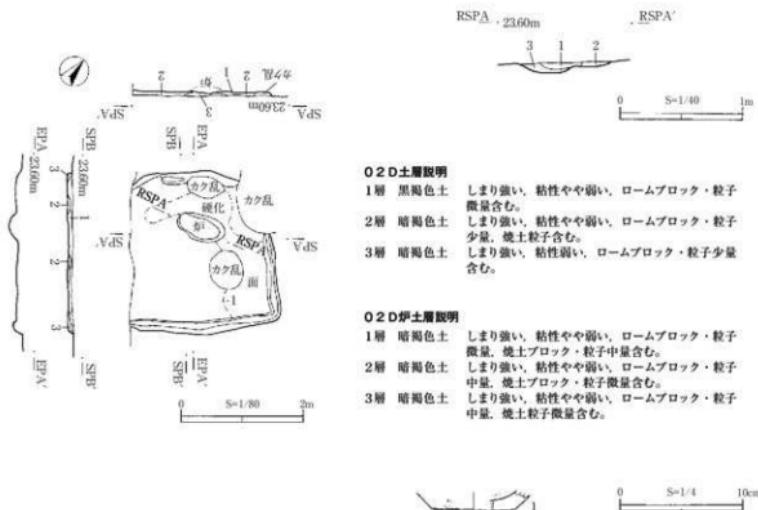
第2表 O 1 D 出土遺物観察表 (第10-13回)

No	器種・形態	状態・部位	計測値 (mm)	○胎土／石材 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	推定 ( ) 現存 < >	出土状況
1	甕	口縁～颈部 (約1/8)	口径200.0	○細砂粒・雲母粒 (中) ●内・外にぶい黄褐色～にぶい黄褐色 外) 黒褐色	内) 口縁部ヨコナデ。底部ヘラナデ。 外) 口縁部ヘラナデ。縦ナデ。底部 ヘラナデ。		覆土中
2	甕	口縁～胴上部 (約1/8) 高<335>	口径120.0	○細砂粒・雲母粒 (少) ●内) 明赤褐色～暗灰色 外) にぶい赤褐色～明赤褐色	内) 口縁部ヨコナデ。胸部ヘラナデ。 外) 口縁部指頭による押さえ。胸部 ヘラ削り。ヘラナデ。		床直
3	甕	口縁部		○細砂粒・雲母粒 (少) ●内) 黒褐色 外) 黑褐色	内) ヨコナデ。 外) ヘラナデ。		覆土中
4	甕	口縁～颈部		○胎土密・雲母粒 (少) ●内) 黒褐色 外) にぶい黒褐色～黒褐色	内) 口縁部ヨコナデ。颈部ヘラナデ。 外) 口縁部ヨコナデ。		覆土中
5	甕	底縁部		○細砂粒・雲母粒 (少) ●内) にぶい赤褐色～暗赤褐色 外) 黑褐色	内) ヘラナデ。 外) ヘラ削り。ヘラナデ。		覆土中
6	甕	底部	底径60.0 高<115>	○細砂粒・雲母粒 (中) ●内・外) 黑褐色	内) ヘラナデ。ナデ。 外) ヘラナデ。底削り。		床直
7	甕	底部	底径50.0 高<100>	○細砂粒 (多)・雲母粒 (少) ●内) 明赤褐色 外) 黑褐色	内) ナデ。 外) 底部ヘラナデ。 底削り) ヘラナデ。		覆土中
8	杯	口縁部		○胎土密・雲母粒 (少) ●内) 明赤褐色 外) 黑褐色	内・外) ヨコナデ。口縁部下内面 に網状の凹線有り。	P2	覆土中
9	杯	口縁部片		○胎土密・雲母粒 (少) ●内) 明赤褐色 (赤彩) 外) にぶい黄褐色～明赤褐色 (赤彩)	内・外) ヨコナデ。口縁部下内面に 網状の凹線有り。		覆土中

10	杯	口縁～体部上半	○細砂粒・雲母粒（少） ●内・外）明赤褐色（内外面とも赤色）	内・外）口縁端部ナデ、体部へラナデ。 内）ヨコナデ、ナデ。 外）ヨコナデ。	擾乱中	
11	杯	口縁部	○細砂粒・雲母粒（少） ●内・外）明赤褐色（内外面とも赤色）	内）ヨコナデ、ナデ。 外）ヨコナデ。	擾土中	
12	杯	口縁部	○船土迹、雲母粒（少） ●内・外）黒褐色	内）ヨコナデ。 外）ナデ。	擾土中	
13	杯	口縁部	○細砂粒（極少）、雲母粒（少） ●内・外）明赤褐色	内）ヘラナデ、ナデ。 外）ヘラナデ。	擾土中	
14	杯	口縁～体部 (1/4)	○船土迹、雲母粒（極少） ●内）明赤褐色 外）明褐色～橙色	内）口縁部ヨコナデ、ナデ、体部ナデ。 外）口縁部ヨコナデ、ヘラナデ。体部へラ削り、ヘラナデ。	擾乱中	
15	小型杯	口縁～体部 (底部中央欠)	口縁部23.0 高<28.0>	○細砂粒・雲母粒（少） ●内）明赤褐色（赤彩） 外）にぶい黒褐色～明赤褐色	内）ヘラナデ、ナデ。 外）口縁部ヨコナデ。体部へラ削り、ヘラナデ。	擾乱中
16	杯	口縁～体部上半	○細砂粒・雲母粒（少） ●内）明赤褐色（赤彩） 外）赤褐色（赤彩）	内）ヨコナデ。 外）口縁部ヨコナデ。体部へラナデ。	擾乱中	
17	杯	口縁部	○細砂粒・雲母粒（極少） ●内）明赤褐色 外）褐色	内・外）ナデ、口縁端部にナデによる凹窪あり。	床直	
18	杯	口縁～体部上半	○船土迹、雲母粒（少） ●内）赤褐色 外）明赤褐色	内）口縁部ヨコナデ、体部ナデ。 外）口縁部ヨコナデ、体部へラナデ、ナデ。	擾土中	
19	椀	口縁～体部上半	○細砂粒（極少）、雲母粒（少） ●内・外）暗赤褐色（内外面とも赤色）	内）横ナデ。 外）口縁部ヨコナデ、体部へラ削り、ヘラナデ。	擾土中	
20	椀	口縁～胴上部	○細砂粒・雲母粒（少） ●内）にぶい黄褐色 外）橙色～黒褐色	内）横ナデ。 外）口縁部ヨコナデ胴部へラ削り、ヘラナデ。	擾土中	
21	椀	口縁～体部上半 (湖褐色は斜一部現)	○船土迹、雲母粒（少） ●内・外）にぶい褐色～鉛色	内）口縁部ヨコナデ、体部へラナデ。 湖褐色あり。 外）ヘラナデ。	P1 擾土中	
22	椀	口縁部	○細砂粒・雲母粒（少）、小石（少） ●内）赤褐色（赤彩） 外）赤褐色～にぶい赤褐色（赤彩）	内）横ナデ。	床直	
23	椀	口縁～胴上部	○細砂粒（極少）、雲母粒（少） ●内）にぶい褐色 外）赤褐色～灰褐色	内）ヨコナデ。 外）口縁部ヨコナデ、胴部へラナデ。	床直	
24	椀	口縁～体部上半	○細砂粒・雲母粒（少） ●内・外）明赤褐色（内外面とも赤色）	内）ヨコナデ、粘土帶の輪郭痕あり。 外）口縁部ヨコナデ、体部へラナデ。	擾土中	
25	椀	底部	○細砂粒・雲母粒（中） ●内）明赤褐色～黒褐色 外）明赤褐色～褐色。（黒度あり）	内）ヘラナデ。 外）ヘラ削り、中央部に凹み。	擾土中	
26	椀	胴下部～底部	底径60.0 高<23.0>	○細砂粒・雲母粒（少） ●内）明赤褐色～褐色（赤彩） 外）明黄褐色～褐灰色	内）ヘラナデ、ナデ。（黒度あり） 外）ヘラナデ、ナデつけ。 底外）指頭によるナデつけ、手捏状。	擾土中
27	高杯	脚根部	○細砂粒・雲母粒（少） ●内）明赤褐色 外）橙色	内・外）ヨコナデ。	P1 擾土中	
28	高杯	脚根部	○船土迹、雲母粒（少） ●内・外）明赤褐色（内外面の端部赤色）	内）ナデ、端部ヨコナデ。 外）ナデ。	擾乱中	
29	高杯	脚の跡？	○細砂粒・雲母粒（少） ●明赤褐色	外）ヘラナデ、ナデ	P1 擾土中	
30	高杯	脚根部	○細砂粒・雲母粒（少） ●内・外）明赤褐色	内・外）ヨコナデ。	擾乱中	
31	鉢	口縁部 (折り返し口縁)	○細砂粒（多）、雲母粒（中） ●内）明赤褐色 外）明褐色～褐色	内・外）ヘラナデ。	擾土中	
32	土玉	完存	径27.0×27.0 高25.0 孔φ7.5 重155g	○細砂粒（中）、雲母粒（少） ●にぶい黒褐色～黒褐色	指頭による押さえ、ナデ	擾土中
33	焼成 粘土地	—	48×43×20 重40g	○細砂粒・雲母粒（少） ●明黃褐色～褐色、黑色	表面にスサ状の斜稜板が見られる。 破砕後に被熱し断面に赤化面が見られる。	床直
34	原石 石製模造品未完成品？	完存	長56.0 幅41.0 厚22.0	○滑石	刀子による削り痕が表裏に多くあり。 未完成の可能性が強い。	擾土中

35	原石	欠損	長58.0 幅25.0 厚15.8	○滑石	断面に母岩形成時の層状堆積が認められる。	床直
36	原石	ほぼ完存	長58.0 幅33.0 厚15.9	○滑石	両側面の一部に刀子か鑿による削り痕あり。未成品（劍形？）の可能性あり。	床直
37	フレーク		長32.5 幅9.5 厚9.2	○滑石		覆土中
38	フレーク		長62.0 幅35.8 厚10.2	○滑石	大形剥片、中央部に刀子の刃によるキズあり。	覆土中
39	フレーク		長25.0 幅13.0 厚5.5	○滑石		覆土中
40	軽石	欠損	長37.2 幅25.5 厚9.3	○軽石 暗褐色		擾乱中
41	筋跡車	完存	径32.0×32.0 厚9.2 孔φ6.7	○滑石	下面及び側面に線刻。側面は斷面状。	床直
42	石製模造品鏡形 未製品	ほぼ完存	径30.3×28.0 厚7.0	○滑石	形割工程。未穿孔・未研磨。	床直
43	石製模造品劍形 未製品	切先部の一部欠損	長60.0 幅29.5 厚9.0	○滑石	端部は鈍角。下面・側面は未研磨部分が多い。未穿孔。	覆土中
44	石製模造品勾玉 未製品	完存 頭頂部の一部剥離欠損	長31.0 幅12.5 厚4.3 孔φ1.8	○滑石	扁平球玉。表面・側面に研磨痕。ほぼ完成品。	覆土中
45	石製模造品白玉 未製品	完存	径10.8×9.0 厚0.45 孔φ1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	擾乱中
46	石製模造品白玉 未製品	完存	径9.0×8.3 厚4.0 孔φ1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	擾乱中
47	石製模造品白玉 未製品	完存	径9.0×10.3 厚4.0 孔径上1.7下F2.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	擾乱中
48	石製模造品白玉 未製品	完存	径9.0×8.2 厚5.0 孔φ2.0	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	擾乱中
49	石製模造品白玉 未製品		径10.5×7.8 厚2.8 孔φ1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直
50	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径7.5×(5.5) 厚4.0 孔φ1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	P3 フライによる抽出
51	石製模造品白玉 未製品	完存	径7.5×6.1 厚1.5 孔φ1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	P3 フライによる抽出
52	石製模造品白玉 未製品	完存	径6.0×8.0 厚1.0×2.5, 孔径上2.0下F1.7	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	擾乱中
53	石製模造品白玉 未製品	完存	径6.2×7.5 厚4.0 孔φ1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	擾乱中
54	石製模造品白玉 未製品	完存	径6.4×7.3 厚3.0 孔φ1.8	○滑石	形割→穿孔（未貫通）。未研磨。	床直 フライによる抽出
55	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径6.0×(6.5) 厚3.5 孔φ1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直 フライによる抽出
56	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径7.8×(4.8) 厚4.0 孔φ1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	P3 フライによる抽出

57	石製模造品白玉 未製品	完存	径9.0×8.5 厚1.5~4.3 孔φ1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	搬乱中
58	石製模造品白玉 未製品		径7.0×6.5 厚1.9 孔φ1.8	○滑石	形割→穿孔（未貫通）。未研磨。	床直
59	石製模造品白玉 未製品		径7.3×7.5 厚2.0 孔φ2.0	○滑石	形割→穿孔（未貫通）。未研磨。	床直
60	石製模造品白玉 未製品		径8.5×8.5 厚3.0	○滑石	形割工程。未穿孔・未研磨。	床直
61	石製模造品白玉 未製品	完存	径7.5×8.0 厚3.0	○滑石	形割工程。未穿孔・未研磨。	P3 フルイに よる抽出
62	石製模造品白玉 未製品	完存	径7.0×7.0 厚3.8	○滑石	形割工程。未穿孔・未研磨。	P3 覆土中
63	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径6.8×(6.0) 厚3.0 孔φ1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直
64	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径6.0×(3.5) 厚2.5 孔φ1.5	○滑石	穿孔→研磨途中で欠損。	床直 フルイに よる抽出
65	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径6.4×(5.3) 厚1.5 孔φ1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直
66	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径6.8×(3.2) 厚2.3 孔φ1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直
67	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径6.0×(4.5) 厚2.3 孔φ1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直 フルイに よる抽出
68	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径6.0×(4.8) 厚3.0 孔φ1.5	○滑石	形割→穿孔（未貫通）。未研磨。	床直 フルイに よる抽出
69	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径6.0×(4.2) 厚1.3 孔φ1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直
70	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径6.3×(4.5) 厚2.7 孔φ1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直 フルイに よる抽出
71	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径6.8×(5.8) 厚2.8 孔φ1.5~1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直 フルイに よる抽出
72	石製模造品 白 玉 未製品？		径7.0×7.8 厚3.0	○滑石	形割工程。未穿孔・未研磨。	床直
73	石製模造品白玉 未製品	1/2欠損	径7.0×(5.2) 厚3.0 孔φ1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直



第14図 O 2 D 実測図と出土遺物

第3表 O 2 D 出土遺物観察表 (第14図)

No.	器種	状態・部位	計測値 (mm)	○地土・石材	●色調	形状・調査・文様などの特徴	出土状況
1	甕	底部	底径 (70) 高<14>	○細砂粒・雲母粒 (中)	●内) 明赤褐色 外) 明黄褐色、にぶい黄褐色、所々 灰黄褐色	内・外) ヘラナダ。 (底外) ナダ。	床直

遺物 土器239点、土製品1点、焼成粘土塊1点、石製模造品1点、石製模造品の未製品34点、原石2点、剝片・細片261点、軽石2点

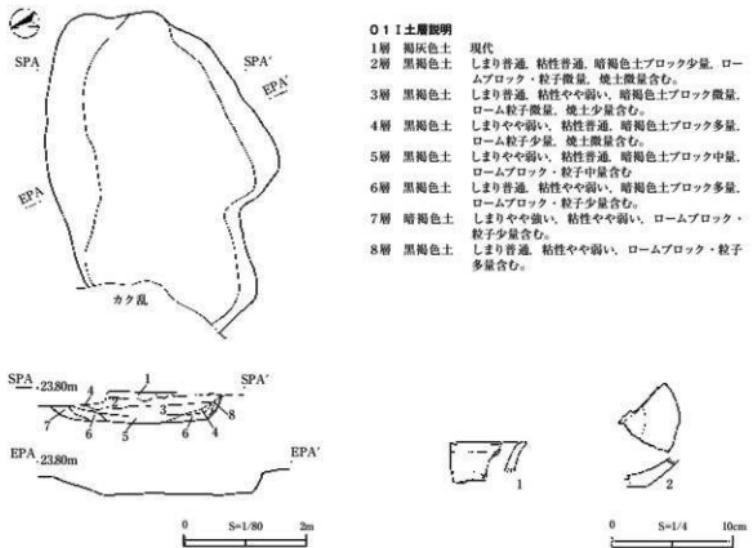
本住居跡からは石製模造品に関わる遺物が多数出土した。具体的には覆土中から勾玉や劍形石製模造品の未製品が出土し、床面直上からは鋸歯文が施された滑石製の紡錘車が出土した。そして、同じく床面直上からは鏡形石製模造品や臼玉の未製品、製作中に破損したと思われる臼玉の出土が認められた。さらに、石製模造品の製作に際して剥離されたと考えられる滑石の剝片や細片、原石が床面直上から覆土にかけて多数出土した。以上のことから、覆土中の未製品については本住居跡の用途と関連させることが難しいが、本住居跡は石製模造品の工房跡であった可能性が高いと思われる。

土器は覆土中から床面直上にかけて菱形土器や椀形土器、杯形土器、高杯形土器の破片が出土し、中心部に穿孔が施されたいわゆる土玉、焼成粘土塊も確認された。

O 2 D 調査区：A区 時期：中期 検出面：ソフトローム層

遺構 平面形態：方形 規模：長軸2.68m × 短軸(2.36m) × 深さ0.08m

小形の住居跡で南西側は擾乱によって消失していた。本住居跡からは炉と壁溝が検出されたが、柱穴と考えられるようなピットは検出されなかった。O1Dと同じくソフトローム層の地山が床面と



第15図 O 1 I 実測図と出土遺物

第4表 O 1 I 出土遺物観察表 (第15図)

No.	器種	状態・部位	計測値 (mm)	○陶土・石材 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	推定 ( ) 現存 < >	出土状況
1	甕	口縁～胴上部		○青母粒 (少) ●内) 赤褐色～褐灰色 外) 黒褐色	内・外) ヨコナデ。		覆土中
2	甕	胴下部～底部		○褐色鉢・茎母粒 (中) ●内) 褐色～黒褐色 外) にぶい黄褐色～黒褐色	内) 器面剥落により不明。 外) ヘラ削り、ヘラナデ。		覆土中

なっており、床面の硬化の度合いは弱く、硬化面は本住居跡の北側で認められた。

遺物 土師器22点、石器の剝片・細片12点

本住居跡から出土した土器は細片が多く、図化できたのは菱形土器の底部1点のみである。また、図化はしなかったが、滑石の剝片・細片が複数出土している。

#### O 1 I 調査区F-1区 時期：後期 検出面：ソフトローム層

遺構 平面形態：不整円形 規模：長軸5.56m×短軸3.92m×深さ0.24m

遺構の新旧関係：O 1 K→O 1 I

本遺構はO 1 Kの周溝を切って構築されている。本遺構に伴うようなピットなどは確認されず、平面形態も不整形であるため、その性格を窺い知ることはできなかった。

遺物 土師器14点

出土した土師器のうち覆土中から出土した菱形土器の口縁部と底部各1点ずつを図化した。いずれも古墳時代後期に属するものと思われる。



第16図 遺構外出土遺物

第5表 遺構外出土遺物観察表（第16図）

No.	器種	状態・部位	計画値 (mm)	○胎土／石材		推定 ( ) 残存 < >	出土状況
				●色調	整形・調整・文様などの特徴		
1	杯	口縁部		○細砂粒・雲母粒 (少) ●内) 明褐色～褐灰色 外) 明赤褐色～褐灰色	内・外) ヨコナゲ。		表採

#### 遺構外出土遺物

古墳時代の杯形土器を1点図化した。

#### 第3節 墳場台古墳b地点

墳丘は削平されていたが、古墳の周溝を検出した。

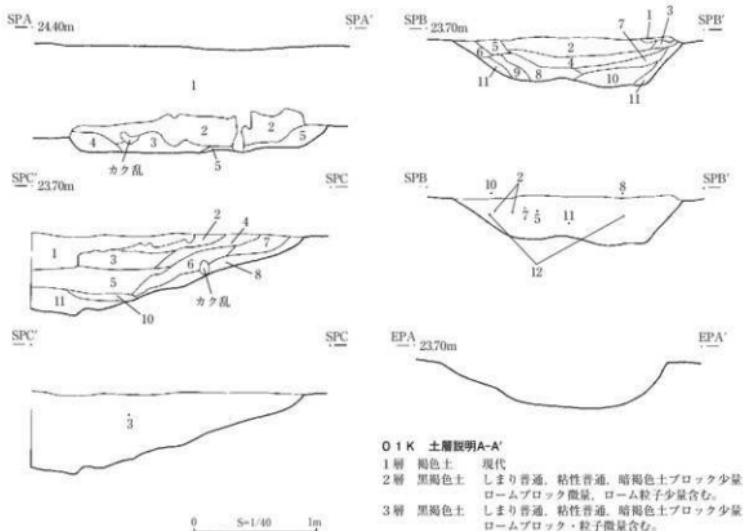
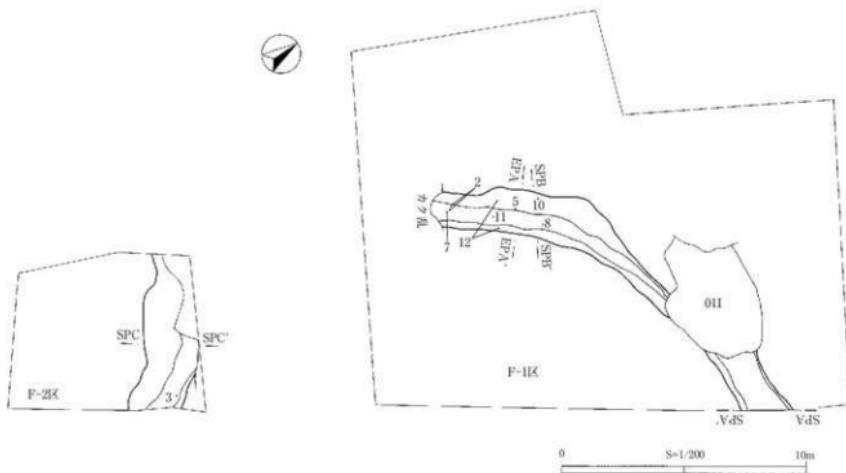
O 1 K 調査区：F - 1・2区 時期：後期 検出面：ソフトローム層

遺構 平面形態：円墳 規模：直径27.50m 遺構の新旧関係：O 1 K → O 1 I

墳丘は既に削平されていたため、今回検出されたのは周溝のみである。周溝は0IIに切られている。周溝の形態は墳丘側の立ち上がりが比較的均等な角度であるのに対し、反対側の立ち上がりの角度にはばらつきがある。この角度のばらつきに伴うかのように周溝の幅にもばらつきが認められ、広いところで上端の幅が2.06mあるのに対し、狭いところで上端の幅が0.76mの場合もある。周溝の深さは検出面から浅いところで0.40m、深いところで0.62mであった。

遺物 土師器43点 石器の細片1点、繩文土器11点、瓦質土器1点

出土した土師器のうち変形土器、楕形土器、瓶形土器の破片を各1点ずつ、搅乱出土ではあるが、本遺構に伴う可能性のある高杯形土器1点を図化した。なお、本遺構は0IIに切られていたのだが、遺物は両遺構とも古墳時代後期のものであるため、両遺構の時期差は土器の型式差に表れない程度であったと推測される。他にも繩文土器や中世の土器が出土しており、6が阿玉台式、7~12が加曾利B式で11と12は同一個体、5が高台付瓦質土器である。



#### O 1 K 土層説明A-A'

- 1 層 土色上 現代
- 2 層 黒褐色土 しまり普通、粘性普通、暗褐色土ブロック少量、ロームブロック微量、ローム粒子少量含む。
- 3 層 黒褐色土 しまり普通、粘性普通、暗褐色土ブロック少量、ロームブロック、粒子微量含む。
- 4 層 黒褐色土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗褐色土ブロック中量、ロームブロック、粒子少量含む。
- 5 層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性普通、暗褐色土ブロック多量、ロームブロック少量含む。

第17図 O 1 K 実測図 (1)

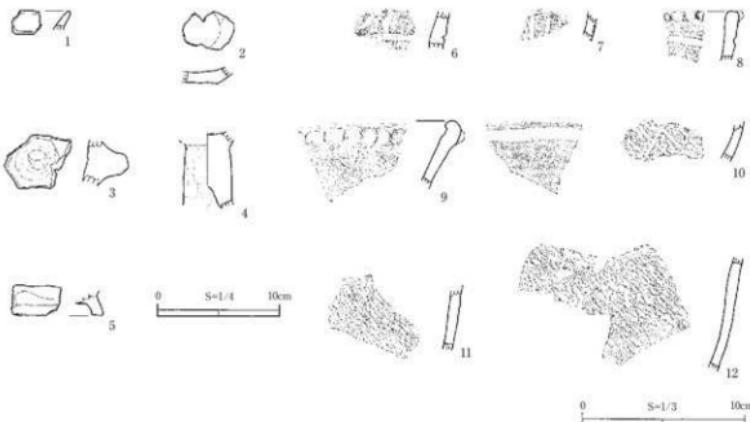
### O 1 K 土層説明B-B'

- 1層 褐色土 現代
- 2層 黒褐色土 しまりやや強い。粘性やや弱い。暗褐色土ブロック少量。ロームブロック・粒子微量含む。
- 3層 黒褐色土 しまり強い。粘性普通。暗褐色土ブロック多量。ロームブロック・粒子微量含む。
- 4層 黒褐色土 しまり強い。粘性普通。暗褐色土ブロック中量。ロームブロック・粒子少量含む。
- 5層 暗褐色土 しまり強い。粘性やや弱い。黒褐色土ブロック微量。ロームブロック・粒子微量含む。
- 6層 暗褐色土 しまり普通。粘性やや弱い。ロームブロック・粒子多量含む。
- 7層 暗褐色土 しまりやや弱い。粘性やや弱い。黒褐色土ブロック微量。黒色土粒子微量。ロームブロック・粒子微量含む。
- 8層 暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。ロームブロック・粒子多量。黒色土粒子微量含む。
- 9層 暗褐色土 しまり普通。粘性やや弱い。ロームブロック・粒子中量含む。
- 10層 暗褐色土 しまりやや弱い。粘性やや弱い。黒色土ブロック微量。ロームブロック・粒子少量含む。
- 11層 暗褐色土 しまりやや強い。粘性やや弱い。ロームブロック・粒子少量含む。

### O 1 K 土層説明C-C'

- 1層 褐色土 現代
- 2層 黒褐色土 しまりやや強い。粘性普通。暗褐色土ブロック少量。ロームブロック・粒子微量。燒土微量含む。
- 3層 黒褐色土 しまりやや強い。粘性やや弱い。暗褐色土ブロック微量。ロームブロック・粒子微量含む。
- 4層 黒褐色土 しまりやや強い。粘性やや弱い。暗褐色土中量。ロームブロック・粒子微量含む。
- 5層 黒褐色土 しまり普通。粘性やや弱い。暗褐色土ブロック微量。ロームブロック・粒子微量含む。
- 6層 黒褐色土 しまりやや強い。粘性やや弱い。暗褐色土ブロック少量。ロームブロック・粒子少量含む。
- 7層 暗褐色土 しまりやや弱い。粘性やや弱い。黒褐色土ブロック微量。ロームブロック・粒子微量含む。
- 8層 暗褐色土 しまりやや弱い。粘性普通。暗褐色土ブロック微量。ロームブロック・粒子微量含む。
- 9層 暗褐色土 しまり普通。粘性普通。暗褐色土ブロック少量。ロームブロック・粒子多量含む。
- 10層 暗褐色土 しまりやや弱い。粘性やや弱い。黒褐色土ブロック微量。ロームブロック・粒子中量含む。
- 11層 暗褐色土 しまりやや弱い。粘性やや弱い。黒褐色土ブロック微量。ロームブロック・粒子中量含む。

第18図 O 1 K 実測図 (2)



第19図 O 1 K 出土遺物

第6表 O1K出土遺物観察表（第19図）

推定( ) 残存&lt;&gt;

No	器種	状態・部位	計測値 (mm)	○胎土・石材 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	出土状況
1	甕	口縁部		○胎土密、雲母粒（極少） ●内・外）赤褐色	内) ナデ。 外) ヨコナデ。	覆土中
2	甕	底部		○細砂粒（中）、雲母粒（少） ●内）褐暗赤褐色 外）にぶい赤褐色	内) ナデ。 外) ハラナデ。 底外) ハラナデ。	覆土中
3	瓶	把手	厚さ23.0	○細砂粒、雲母粒（中） ●内）明赤褐色 外）赤褐色	内) 調整著しく不明。 外) ナデ。	覆土中
4	高杯	脚部	脚径40.0	○細砂粒（中）、雲母粒（少） ●内）褐暗赤褐色 外）赤褐色（本彩）	内) ハラ削り、指頭によるナデ。 外) ハラ削り、ナデ、脚部付近ヨコナデ・ナデ。	漫乱中
5	高台付瓦質土器	高台部		○胎、長石粒・雲母粒（少） ●内）にぶい褐色 外）黒色	内) ナデ。 外) ヨコナデ、ミガキ。	覆土中
6	深鉢	胴部		○細砂粒（多）、雲母粒（中） ●内）黒褐色～にぶい黄褐色 外）赤褐色～黒褐色	外) 手造竹管による押引き、沈模内にLR施文。	覆土中
7	深鉢	胴部		○細砂粒、雲母粒（少） ●内）赤褐色 外）褐灰色～黒褐色	内) ナデ。 外) 地紋RLに平行沈線施す。	覆土中
8	深鉢	口縁部		○細砂粒、雲母粒（中） ●内）暗赤褐色 外）暗褐色～黒褐色	口縁部外面に絆縫貼付、LR施文地紋に凹線施す。	覆土中
9	深鉢	口縁部		○細砂粒、雲母粒（少） ●内・外）明黄褐色	口縁部外面に絆縫貼付、内面に凹線。	覆土中
10	深鉢	胴部		○胎土密、雲母粒（少） ●内）明黄褐色 外）明赤褐色～にぶい黄褐色	地紋RLにRの附加？	覆土中
11	深鉢	胴部		○細砂粒、雲母粒（中） ●内・外）にぶい黄褐色～明黄褐色	内) ミガキ。 外) 地紋RLにRの附加？	覆土中
12	深鉢	胴部		○細砂粒、雲母粒（中） ●内・外）にぶい黄褐色～明黄褐色	内) ミガキ。 外) 地紋RLにRの附加？ 灰化物付着。	覆土中

## 第3章 成果と課題

### 第1節 縄文時代

縄文時代の遺構としては土坑5基を検出したが、いずれも具体的な時期を特定できる土器などは出土しなかった。ただし、陥穴遺構であるO4Pの底面からは石鏃が1点出土しており、陥穴が狩りのために構築されたものであることを踏まえると示唆的な出土状況である。

### 第2節 古墳時代

古墳時代の遺構としては中期の堅穴住居跡2軒、後期の円墳の周溝1条と性格不明の堅穴状遺構1基を検出した。今回検出された円墳の周溝は昭和58年（1983年）に調査された主体部に伴うものと考えられ、円墳のおよその規模を把握することができた。

一方、住居跡で注目すべきは石製模造品の工房跡と考えられるO1Dである。本遺構からは石製模造品の素材となる剝片を剥離するための母岩が出土しており、石製模造品の製作工程における荒削が行なわれていたようである。さらに、研磨されていない鏡形石製模造品や白玉の未製品もあり、形削工程も行なわれていたことが確認できる。また、研磨途中の白玉の未製品も1点出土したが、研磨によって生じる粉末状のものが遺構から検出されなかったため、主に石製模造品の製作における荒削→形削という工程が本遺構で行なわれていたと考えられる。

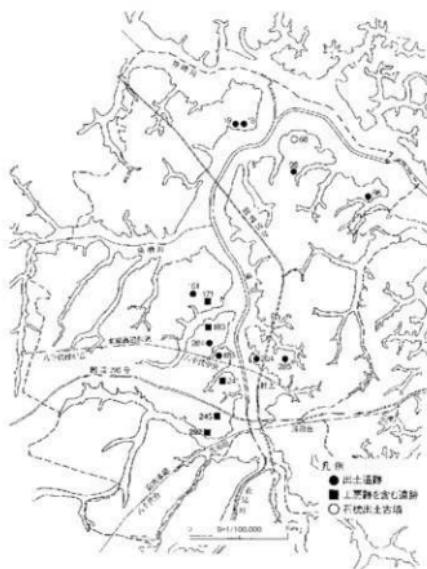
さて、八千代市内では小板橋遺跡や川崎山遺跡、権現後遺跡、北海道遺跡、道地遺跡で石製模造品の工房跡が確認されており、新川西岸に集中している。堰場台遺跡・堰場台古墳の石製模造品の工房跡もその例に漏れないのだが、新川西岸に石製模造品の工房跡が集中していた理由は何であろうか。これは八千代市とその周辺の古墳時代を考える上で重要な課題である。

### 第3節 今後の課題

堰場台遺跡・堰場台古墳では、昭和58年（1983年）の調査を除き、本調査が行なわれることはなかった。そのため、今回の調査で縄文時代の陥穴や古墳時代集落の存在を明らかにできたことは重要な成果であった。しかし、堰場台遺跡の理解については今回の調査が端緒となつたに過ぎず、遺跡がどこまで広がりを持つのかという点が今後の課題である。

#### 参考文献

- おおびた遺跡調査団1975『おおびた遺跡』
- 財团法人千葉県教育振興財團文化財センター2006『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書5』
- 財团法人千葉県都市公社1975『八千代市村上遺跡群1974』
- 財团法人千葉県文化財センター2004『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書2』
- 財团法人千葉県文化財センター1984『八千代市権現後遺跡』
- 財团法人千葉県文化財センター1985『八千代市北海道遺跡』
- 財团法人千葉県文化財センター1987『八千代市井戸向遺跡』
- 財团法人千葉県文化財センター1991『白幡前遺跡』
- 八千代市遺跡調査会1980『荒田町川崎山遺跡』
- 八千代市遺跡調査会2003『千葉県八千代市川崎山遺跡d地点』
- 八千代市遺跡調査会2004 a『千葉県八千代市川崎山遺跡h地点』



第20図 八千代市内の石製模造品出土遺跡分布図

八千代市遺跡調査会2004 b 「千葉県八千代市向境遺跡」

八千代市遺跡調査会2007 「千葉県八千代市浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡」

八千代市遺跡調査会2008 「千葉県八千代市小板橋遺跡」

八千代市川崎山遺跡調査会1999 「千葉県八千代市川崎山遺跡」

八千代市教育委員会1986 「千葉県八千代市平戸道地遺跡」

八千代市教育委員会2007a 「千葉県八千代市浅間内遺跡発掘調査報告書」

八千代市教育委員会2007b 「千葉県八千代市権現後遺跡」

八千代市教育委員会2008 「千葉県八千代市川崎山遺跡 n 地点」

八千代市教育委員会2009 a 「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書」

八千代市教育委員会2009 b 「千葉県八千代市道地遺跡 e 地点・平戸台8号墳」

八千代市教育委員会2011 「千葉県八千代市麦丸遺跡 h 地点」

八千代市史編さん委員会1978 「八千代市の歴史」

第7表 八千代市内における石製模造品の関連遺物出土遺跡

古道 No.	古道 名	遺跡名	遺跡No.	標 高	石片	臼玉		網引		勾玉		円板		瓦円板		有孔円盤		その他		時期	文献		
						未成	未 完成	未成	未 完成	未成	未 完成	未成	未 完成	未成	未 完成	未成	未 完成	未成	未 完成				
1. 18	道地遺跡 a 地点	3号							1									2			古墳時代中期	八千代市教育委員会 〔以下「市教委」〕 1986年	
		5号							1											1		古墳時代中期	市教委 1990年 a
		8号																		1		不明	市教委 2009年 b
	e 地点	鐵道 2M							1													愈良貞安時代	市教委 2009年 a
		1M																				愈良貞安時代	市教委 2009年 b
		003号																				古墳時代後期	古墳時代後期
	船橋印山西面2	017号																2				財團法人千葉県文化財センター	
		014号							1	1								1			古墳時代中期	〔以下「千文セ」〕 2004年	
		018号																6			古墳時代中期	〔以下「千文セ」〕 2004年	
	019号	019号								1								1			古墳時代中期	〔以下「千文セ」〕 2004年	
		020 A号																1			古墳時代中期	〔以下「千文セ」〕 2004年	
		遺跡外																2			古墳時代後期	千葉県考古振興会 2006年	
2. 19	平洋台 8 号墳	石柱面							2													市教委 2009年 b	
		神奈川山 4 号墳	土作部																			古墳時代中期	八千代市史編さん会 1978年
5. 98	おおひた遺跡	第 3 号房	A003						1													古墳時代中期	おおひた遺跡調査会 1975年
		A006																				古墳時代中期	古墳時代中期
5. 98	向ぬ道跡	A007				1																古墳時代中期	古墳時代中期
		小計							1									1			古墳時代後期	古墳時代後期	
6. 151	夷先道跡 b 地点	遺跡外																1				市教委 2011年	
		D035	1	2,136	27	12	1															古墳時代中期	古墳時代中期
	椎原後遺跡	D131	4	11,225	275	33	1	1	1	1								1				古墳時代中期	古墳時代中期
		D132	1	5,908	98	28	1	1										1				古墳時代中期	古墳時代中期
		D133	4	14,881	446	46				1	1	1						1				古墳時代中期	古墳時代中期
	a 地点	D099																				古墳時代後期	古墳時代後期
		3号																1				市教委 2007年 b	
		小計	10	34,150	846	119	4	3	2	1								2					
7. 171	北海道遺跡	D010	5	2,703	282	7	8											1				古墳時代中期	古墳時代中期
		D011	4	1,338	111	4												3	2			古墳時代中期	古墳時代中期
		D012	12	48,672	1,862	48		1	3									2	4			古墳時代中期	古墳時代中期
	D013	D013	2	2,698	143	6												1				古墳時代中期	古墳時代中期
		D014	6	11,622	927	39		2	1	2	3		10	1				53				古墳時代中期	古墳時代中期
		D016	6	7,655	532	43	21		1	2				1	2	3		7				古墳時代中期	古墳時代中期
	D022	D022	5	8,600	387	8	58	3					9	1	2			9				古墳時代中期	古墳時代中期
		D055																				古墳時代中期	古墳時代中期
		D057																				古墳時代中期	古墳時代中期
8. 183	北海道遺跡	D058	1	423	49	4	1															古墳時代中期	古墳時代中期
		D059	8	4,139	284	55	10	1														古墳時代中期	古墳時代中期
		D060																				古墳時代中期	古墳時代中期
	D066	D066																				古墳時代中期	古墳時代中期
		D067																				古墳時代中期	古墳時代中期
		D068	1	423	49	4	1															古墳時代中期	古墳時代中期
	D069	D069																				古墳時代中期	古墳時代中期
		D070																				古墳時代中期	古墳時代中期
		D071																				古墳時代中期	古墳時代中期
9. 284	井戸附道跡	D099	3	35	1	3	1											1				古墳時代後期	千文セ 1985年
		D107																				古墳時代後期	千文セ 1985年
10. 185	白幡前道跡	D163																1				平安時代	平安時代
		D169																1				平安時代	平安時代
	d 地点	D010																1				千文セ 1991年	
		D024																1				古墳時代中期	古墳時代中期
		D25D																1				古墳時代中期	古墳時代中期
	h 地点	D3D	2	9	45	2	4			1	8		1	1	1			1	2			古墳時代中期	古墳時代中期
		D6D	1	5	48		4	1		3	1							1				古墳時代中期	古墳時代中期
		D10D																1				古墳時代中期	古墳時代中期
11. 241	n 地点	D12D	3	507	139	6	9	2	4	11	1	1	1	3	1	2	7					古墳時代中期	古墳時代中期
		D34																				古墳時代中期	古墳時代中期
		D70																				古墳時代中期	古墳時代中期
	D24	D24																				古墳時代中期	古墳時代中期
		D21																				古墳時代中期	古墳時代中期
		D40																				古墳時代中期	古墳時代中期
	7. 7c	7c: 道跡6																1				平安時代	平安時代
		小計	26	9	1	1																八遺調 2007年	
		小計	3	507	139	6	9	2	4	11	1	1	1	3	1	2	7					八遺調 2007年	
14. 285	村上第 1 古墳	前頭部																				古墳時代終末期	千葉縣市公社 1975年
		O1D	2	361	31		1	1	1	1													古墳時代終末期
15. 292	堺町通古墳 a 地点	O2D																				古墳時代中期	本報告
		小計	2	273	31	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	2	2	2	2	古墳時代中期	
合 计			71	129,063	6,214	413,150	11	15	7	6,16	8	12	3	27	7	41	22	3	1	2,95			

図版 1



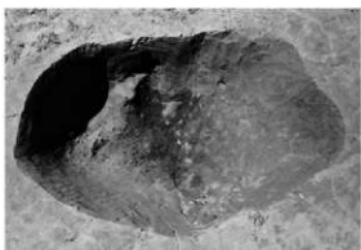
作業風景（1）



作業風景（2）



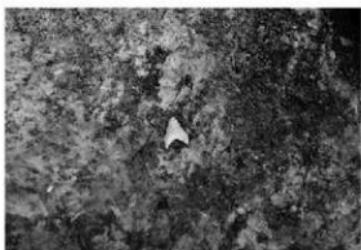
0.1 P 完掘



0.2 P 完掘



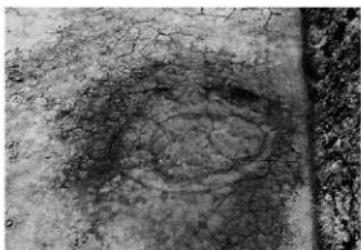
0.3 P 完掘



0.4 P 遺物出土状況



0.4 P 完掘



0.5 P 完掘

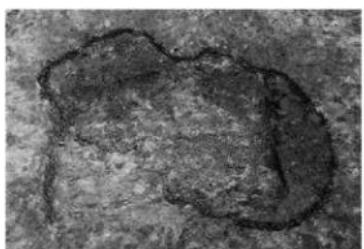
図版2



O 1 D 遺物出土状況



O 1 D 焼土検出状況



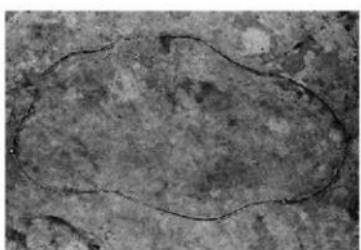
O 1 D 炉検出



O 1 D 完掘



O 2 D 遺物出土状況



O 2 D 炉の検出状況



O 2 D 完掘



O 1 I 遺物出土状況

図版 3



O 1 I 完掘



O 1 K 遺物出土状況



O 1 K 完掘 (F-1 区)

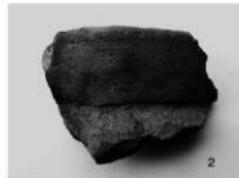
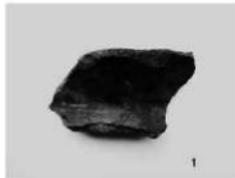


O 1 K 完掘 (F-2 区)

0 4 P 出土遺物



0 1 D 出土遺物

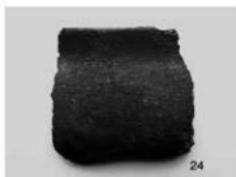


図版4

O 1 D出土遺物



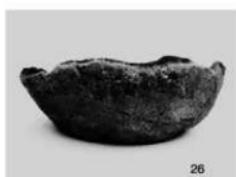
15



24



25



26



31



32



33



34



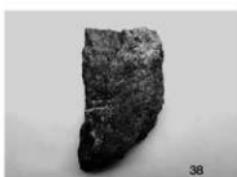
35



36



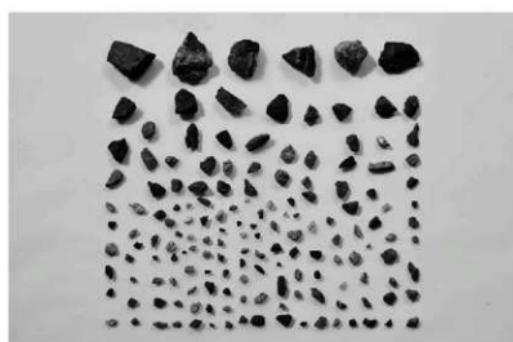
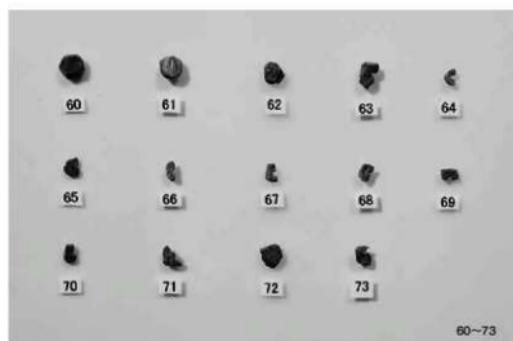
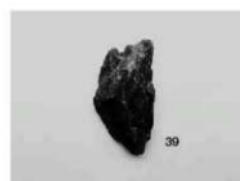
37



38

図版5

O 1 D出土遺物



石製模造品関連の剝片・断片



図版6

01D出土遺物



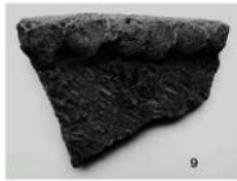
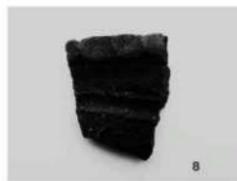
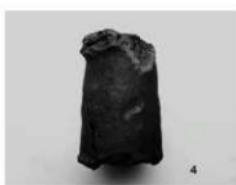
02D出土遺物



01I出土遺物



01K出土遺物



## 報告書抄録

千葉県八千代市堰場台遺跡 a 地点  
—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

---

発行日 平成26年3月31日  
編集 八千代市教育委員会 教育総務課  
〒276-0045 八千代市大和田138-2  
TEL 047-483-1151 代表  
発行 株式会社グランドラインコーポレーション  
印 刷 金子印刷企画

---